

6月の生活表

2023年 6月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：見つける

保育日数（21日）

月目標：＜3歳児＞

- ・礼拝を通して、神様の存在を知る。
- ・自分の好きな遊びを楽しみながら、周りの人を感じ目を向ける。
- ・様々な環境に自ら関わり、小さな発見を重ねる。

＜4・5歳児＞

- ・友だちと一緒に讃美し、礼拝をする喜びを感じる。
- ・繰り返し好きな遊びをすると共に友だちの遊びに引き込まれながら楽しさを感じ、気づきや心もちが様々な形で表される。
- ・様々ないのちの不思議に関心を持ち、絵本や保護者、地域の方との交わりなどを通して興味が深まる。

一年の前半が終わる月になりますね。ついこの間入園式だと思ったのに・・・。気候が春にも真夏にも初春にもなるという不安定な5月でした。体調を整えることの大切さ、でも小さな子どもにとってとても大変なことです。大人が少々口うるさく伝えないとクルクル変わる気温にはなかなか対処できないですね。子どもに届く言葉がけはとても難しいです。

6月といえば、ご家族で登っていただく恒例の「大文字ファミリー登山」ですが??? 京都の大切な文化の一つに触れ、何かを感じ見つけての経験をさせてあげたいと考えています。しかし、早くも5月に発生した台風により秋に延長せざるを得ないでしょうね。

今月は「見つける」という主題。さて、見つけるとは。子どもたちは、大人は、何を「見つける」のでしょうか。気がつくことによって意図して「見つけられる」。失ったものを探すという意味での「見つける」もあれば、大好きなお花を探す（見つける）、空を見上げて宇宙の何かを「見つける」、通りすがりにフッと何かに出会う「見つける」もあるかもしれません。書き上げれば切りがなく「見つける」行為に出会うのではないのでしょうか。子どもたちにとっての「見つける」は、「気づく」と置き換えればまさしく非認知能力の大切な条件の一つなのです。そこから、自分がそれに向かってどのように関わろうとするのか、どのように興味を示すのか、神様のお作りになられた大自然に対して、その物、者に対して何を考え、学ぶのか、手に取るのかまた試してみようとするのか、自分で関わりたいと思うことこそを大切にしなければならない主体性です。試そうとした時に失敗するかもしれません。あるいは、遊びが発展して数や言葉を引き出すかもしれません。一緒にしたいのにお友だちに断られるかもしれません。この年齢で失敗をし、試行錯誤をし、粘り強く最後まで根気よくやってみるものの大切さを非認知能力として心に刻んで欲しいと思います。

失敗は成功の元。幼児期は無意識の中で育てられる心の動き育ち、それが非認知能力です。

《チャプレンコーナー》

年主題：つながって ～今、わたしを生きる。～

年聖句：6 月月間主題：見つける

月聖句：主はわたしたちを造られた。（詩編100：3）

キリスト教の神様は、「造物主」です。聖書の冒頭にも、神様はこの世界を6日間でお造りになった、と書かれています。今、私たちの科学では、宇宙ははるか昔のビッグバンによって始まり、どんどん広がり、動き出し、塵が集まり星々が生まれ、燃える太陽を回る地球ができて、今に至る、というのが定説となっています。地球が生まれてからでも数十億年です。6日間とはずいぶん時間の隔たりがあります。

それだけ学問が進んだ現在でも、聖書に記された創造物語は全く色あせません。何故なら聖書は、事実だけでなく、事実が付された大切な意味を、私たちに伝えてくれるからです。それは、この世界は偶然できたのではなく、神様の意志によって造られたのであり、だから、全てのものには意味がある、というものです。その物がその場に存在することの必然があり、それぞれの関係には調和があるのです。自然も生き物も、この世界の中に役割があり、人間には一人一人この世界ですべき使命があるのです。だから私たちは、すべてのものを大切にし、平和を求めて、互いに助け合い支え合わなければならないのです。

「造られたもの」には、「造った者の思い」が込められます。美術品には芸術家の感性が込められ、日用品には職人さんの誇りが込められています。そしてこの世界には、神様の愛が込められているのです。この世界は、神様の愛に満たされた世界です。私たちは神様の愛に包まれて、生きているのです。

子どもたちがきれいなお花を摘んだり、土や水で遊んでいるのを見ると、子どもたちが神様の愛に包まれているのを感じます。平和を祈ります。

あ、そうそう、親であれ子どもを「作った」と言ってはいけませんね。子どもは「授かった」のです。子どもへの愛と敬意をもって、子育てしたいです。

おたんじょうび おめでとうございます

＜生活指導＞

§ 梅雨時の体調に気をつけましょう。油断することなく感染症への予防をしっかりと、健康には十分気をつけましょう。

- ・規則正しい日々の生活を心がけましょう。
- ・早寝早起き、毎朝の朝食、衣服の着脱、登園準備・・・自分でできることはしてみしましょう。
- ・帰宅後の手洗い、うがいをしっかりとしましょう。お風呂（シャワー）・シャンプー・耳あか・爪切りなど、清潔に保つ術を子どもたちにも知らせてください。
- ・梅雨時の不快さを機に、おむつ外しにも挑戦してみしましょう。

（尿意・便意を感じることの大切さ、オムツ外しは成長の一つの証です）

§ 神様の恵みに感謝しましょう。

- ・登降園の道々で神様が下さった命を探し、その大切さに触れてみましょう。また四季の移り変わり（梅雨→初夏への移り変わり）を感じてみましょう。

§ 自宅でも、自分で出来ることを探し、やることで自信が持てる機会を作りましょう。

- ・身辺自立に向かって一つずつ挑戦し、行き届かないところは手伝ってあげましょう。
- ・子どもさんが喜んでできるお手伝いをさせてあげましょう。

§ 父の日（母の日）を通して、身近な人たちの事を考えてみましょう。

- ・家族の名前・年齢・仕事などを知らせ、みんなの働きによって日々の生活が成り立っている事を知らせましょう。
- ・大好きなお父さんやお母さんのお仕事に触れ、喜んでいただけることを考えてみましょう。

§ お友だちと遊びの新しい方法を試し、話し合い、発見しながら、失敗も繰り返しつつ、お互いを知り、一緒に仲良く遊べるようになったらいいですね。

＜クラス担任より＞

〔花組〕

街路樹の紫陽花が美しく咲く季節を迎えます。今年度がスタートして2ヶ月が過ぎました。

子どもたちは2ヶ月の間に毎日先生やお友だちの存在を感じながら、日々心を通わせ、幼稚園の環境にも随分と慣れてきました。落ち着いて「楽しい!」「おもしろい!」を見つけて遊び、「難しい〜」「頑張る〜」にも向き合って、花組の中でそれぞれが一生懸命に毎日を過ごしています。一括りに花組さんといっても、一人一人の成長も、育ってきた歩みも、好みもそれぞれ違います。一人一人の個性を大切にしながら、花組という集団で様々な経験を共にして様々な思いを共有していきたい。一人一人はそれぞれ違うけれど、お友だちの存在から自分にはない何かに気がついたり、自分には出来ないことに興味関心を抱いたり...毎日が刺激でいっぱいです。例えば、「おトイレ事情」も今年度は本当に様々です。①トイレで出来る。②家ではオムツ、幼稚園ではオマル。③家でも、幼稚園でもオムツ。でも時々オマルで成功する。④家でも、幼稚園でもオムツ。オシッコ・ウンチが出たら言える。⑤家でも、幼稚園でもオムツ。出ても言わない。といった具合です。幼稚園（教育時間内）で排泄を促すタイミングは集団には3回です。❶朝の自由遊びのお片付け終了後。❷昼食準備前。❸降園準備前。もちろん、排泄に関しては個人差がある為、個別には、その3回に限りません。上記の「おトイレ事情」の②～⑤のお友だちに関しては、子どもたちの水分補給の状況・体調・担任二人自身の子育てで得た独自の勘からのタイミング...といったところからあの手この手でアプローチしています。「お食事情」も然りです。①ひとりで最初から最後まで食べる。②ひとりで食べられるが時々手伝いが必要。③ひとりで食べられるが、途中から最後までは手伝いなくては食べきれない。④ひとりで（自分で）食べようとしない。という具合に、出来る子どもたちは、出来ないお友だちの良きお手本となり、更に自分の行いに自信を持ち、やる気も芽生えます。出来ない子どもたちにとっては出来るお友だちに対して「すごい!」「かっこいいな!」と思えば幸い、「自分もやってみようかな」と意欲が芽生えます。手強いのは、お友だちが出来てかっこよくても、自分は出来なくていいもん!と、全く動じないパターンです。こうなると、どの援助・言葉掛けが有効かを探り探り、これまたあの手この手でアプローチです。食べること・出す（排泄）ことは、人が生きてゆくうえでとても大切な必要不可欠のこ

とです。入園以前に自立している子どももあります。が、入園以降にこのことに向き合ってゆく子どもたちは、家庭にはない「お友だち」の存在も意識して、良い刺激として全員が食事・排泄の自立を達成出来る様に、ご家庭と連携して取り組んでゆきたいと思います。

季節は春から梅雨へ、そして夏が見え隠れする季節の変わり目です。園庭遊びではダンゴムシ・てんとう虫を夢中になって探しています。お部屋では自分の好きな遊びを楽しみながら沢山の小さな発見を重ねて、その瞬間に先生やお友だちとの関わりが生まれ、遊びに言葉が加わり会話が生まれてゆきます。子どもたちがそれぞれに感じる「楽しさ」「おもしろさ」に共感しながら、子どもたちそれぞれに必要な援助や関わりを見極めつつ一日一日を大切に、一瞬の煌めきを零さず受け止めてゆけたらいいな、と思っています。

個人懇談では貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございました。また、ご家庭で感じられたことや、ご要望やご質問なども含めて、子どもたちの【今】気になることやお気づきになられたことは、ご遠慮なくいつでもお知らせいただけたら嬉しいです。

幼稚園でも子どもたちの「見つけて」「見つけた！」にじっくり寄り添ってゆきたいと思います。どうぞご家庭でも子どもたちの「見つけて」「見つけた！」に出会われた時には少し立ち止まり（手を止めて）、時には寄り道・回り道になりながらも共感して思いを分かち合っていたいただけたらと思います。

[赤組]

「もう夏みたいやな」と錯覚するくらいの日もあった5月。そんな眩しい太陽に負けないくらい笑顔の輝かせ、毎日思いっきり遊ぶ子どもたちです。今週は雨の日が続きそうですね。季節の変わり目、体調管理には引き続き留意していきたいと思っています。

元気一杯の赤組の子どもたち。登園して朝の用意を済ませると、「お庭行こーと！」「裸足になってもいいですか？」「〇〇ちゃん！あーそーぼー！」と、忙しそうに色々な言葉を発しながらそれぞれの好きな遊びへ入り込みます。おまごを継続して楽しむ子、虫探しに夢中になる子、砂場で山作りや穴掘りに励む子、大型積み木でお家を作る子、沢山の遊びが園庭やお部屋で繰り広げられています。そんなある日、お砂場でのこと。穴掘り名人となった子が連日穴を掘っていたのですが、なかなか深い穴になってきたのです。そこへお水を入れて湖を作ること

に。お友だちがバケツに水を汲んで何往復もしているのを見て「お水屋さんになるう」とひらめいた一人の子がいました。水汲み場が自分の持ち場。「お水屋さんで〜す！」「お水下さいな」「何杯要りますか？」とお店やさんごっこも始まりました。自らその遊びの中で、新しく面白いことを見つけられたことに感心しました。また、「バケツ2杯分くらい欲しいかな〜」と大きな入れ物（手押し車）に対してバケツで汲んでくれるため「何杯分」でやり取りが出来ており、自然と数に触れ、分量を空想でイメージすることが出来ていました。何気ない日常でも、実は自ら楽しく関わることで、数や量に対しての学びに繋がっているのです。また、お友だちとの関わりも増えてきました。周りをよく観察して沢山のことを見つけて吸収している子どもたち。お友達の良いところ探しをした際、「優しい」「一緒に遊んでくれるところ」「お野菜苦手やのに頑張っててかっこいいところ」と具体的に教えてくれるお友だちが沢山いました。ここが素敵だなと思えたりする観察が出来ているのです。まだまだ自分のことで精一杯ですが、その中でもお友だちの気持ちになって共感したり、「〇〇しはったし悲しいんと違う？」と相手の気持ちを代弁したりすることもあります。相手の気持ちになって物ごとを考えることはとても難しいことであるはずですが、状況を見て感情を伝えてくれることに驚きました。（正しく非認知能力の体现です。）

進級して2ヶ月が経った赤組さん。進級時、適度な緊張感で不安に押しつぶされることなく、比較的スムーズに進級したように見受けられました。しかし、先週の個人懇談でお話させて頂いた中で、子どもたちは幼稚園では気を張って頑張っているのだと感じました。ご家庭では素の自分を出して、ON / OFFの切り替えが出来ていることは良いことだと思いますが、それが甘えになっては子どもたちの自立へと繋がらないため、ご家庭では適度な甘えん坊を受け止めつつも、ご協力いただければと思います。例えば、身辺自立として幼稚園のカバンのご用意を自分で行うのはどうでしょう。カレンダーを見ながら「明日は何曜日だから持って行くものは何だったかな？」と会話を弾ませながら楽しく用意をしていくうちに、一週間の時制にも目を向ける機会が持てそうですね。幼稚園にも「出来た！」ことをお聞かせ下されば嬉しさも倍増です。

今月は「七夕制作」が始まります。作り方を目で見、耳で聴いて、指・手先をおおいに使って色々なお飾りを作ります。作る過程を楽しみ、こんなお飾りが出来た！と喜び合いたいと思います。出来上がりをどうぞお楽しみに。

〔緑組〕

今年の季節の移ろいはなんだか慌ただしく、季節の花々の開花も早く感じられます。その花々は、色も形も香りも違って私たちを楽しませてくれます。みんな違うから、咲いているその草花に目を留め、その違いに気づくことができます。花に例えるとなんとなく「そうだなあ」と「なるほど」と納得、理解できることでも、人間関係に落とし込んで考えると、必ずしもそうはいかないものですね。でも、緑組の子どもたちにおいては、各々違いを肯定的に捉え、互いの関係を今以上に深めながら、繋がりあえたら...と思うことがしばしばあります。「でもね」「私だって」と主張し合う中で、相手よりも自分の方が勝っていることを認めて欲しいという気持ちがあるのかもしれませんが。また、自分のしたいこと、やりたいことを優先するなかで、友達や周囲で見聞きしている小さな異年齢児の気持ちに気づけないこともあります。1学期の振り返しを前に、さて「緑組」ってどんなクラスなのだろう...。生活習慣や生活リズム、あらゆるものごとへの意欲や態度も含めて、自分中心の世界から、他者と一緒に試行錯誤しながら新たな価値観を養い、協力し合って「共に」育ち合う世界に視野を広げ、感覚を豊かにしていかなければなりません。進級して2か月。それまで園生活のモデルであった前緑組の様子を、真剣に真面目に見聞きし、合同保育のなかで赤組ながらに「緑組さんのように...」と緊張を覚えたこともあったかもしれません。でも今、その緊張や戸惑いよりも、個々が伸び伸びと自分らしさを発揮しながら、時にふざけ合い、時にケンカもし、時に注意され、少しずつ自分を解放できるようになっていることを非常にうれしくも感じています。一方で緑組という年長クラスになったことで、今まで許容されていたことも、同じようにいかないことを子どもたちは感じているのではないのでしょうか。自分の思ったこと、考えたことをどのようにアピールし、また他者の意見をどう聞き取るのか。そして互いの意見が異なったとき、どう対処していくのか...。みんなが「同じ」ではない以上、どのように自分自身と、また他者と「折り合い」をつけていくのかということです。対大人、対家族の中にあっては、自分の意見を理解し、受け止めてもらいやすい環境の中にある子どもたちですが、これから自己主張し、他者理解を深めていく相手は、同年代の「友達」であり、自分たちの「(子ども)社会」です。「個」「我」を大切にする一方で、「他者」の想いや考えをどう理解していくのか、自分自身の行いを客観的に捉える感覚も養っていかなければなりませんね。つまりは、必ずしも『いつも自分が「正しく」自分が「1番」である』必要はないという

ことです。「競うこと」「主張すること」も大切なことです。でも「それだけではない」ことにこれから先を見据えて、園生活の中でしっかり学んでいって欲しいと考えています。もちろん緑組として「～してあげたい」という気持ち、自分も「できる」という気持ち、みんな一生懸命であること、よくよく伝わりますよ。その気持ちが空回りしないように、互いの想いがつながり合える第一歩に...そんな6月になればいいなあと思っています。